

図1 今回の発掘調査で発見した「ヴェロニカのメダイ」

大友氏館跡の調査（第50次調査）で発見。国内で2例目の出土。
いち早く南蛮文化が花開いた「国際貿易都市」大分の歴史を物語る。



幼いキリストを抱く
聖母マリア
(無原罪の御宿り)

キリストの顔

「ヴェロニカ」とは、キリストが十字架を背負い、ゴルゴダの丘へ向かう途中に、キリストの顔の血と汗を自らのヴェールで拭った女性のこと、そのヴェールにはキリストの顔が映し出されたといわれる。

その布に映ったキリストの顔を意匠にもつメダイを「ヴェロニカのメダイ」と呼んでいる。



実物大
(2.5 cm)

図2 南蛮屏風に描かれたメダイ「ヴェロニカ」



ポルトガル商人が持つ「ロザリオ」(祈りの道具)
に十字架と一緒に付けられている

しょうじゅなん せい せいがんふ
図3 『小受難』聖ヴェロニカの聖顔布



聖ペトロと聖パウロの間の聖ヴェロニカ、1509年。

北海道立近代美術館蔵

＜注意＞新聞・テレビ・ホームページ等への画像利用には、特別観覧申請にて北海道立近代美術館の許可が必要です。

「ヴェロニカのメダイ」発見場所

